

令和5年3月20日

滝山病院事件の徹底究明と精神科医療体制の転換を求める声明文

【滝山病院事件に対する厳正な処分と患者の早期救済（退院支援、適切な対応）を求める】

東京都八王子市の精神科病院、滝山病院における患者を暴行する事件がニュースとなり連日の報道が続いている。2月15日に看護師や准看護師が入院患者を暴行した疑いで警視庁が捜索に入り看護師1名が暴行の疑いで逮捕され、その後も逮捕者が続いている。NHKのドキュメンタリー映像では直視することができないような看護者らの患者への暴行、虐待、人権侵害の場面が多く流された。患者救済に当たっている弁護士に泣いて訴えるように「連れて帰ってほしい、また殴られる、連れて帰れないなら一緒に残ってほしい」と訴える患者の姿。また同院、朝倉院長の医者とは思えない人権軽視の発言と一連の暴行に対し「寝耳に水だ」との到底信じがたい釈明などなど。患者の命を預かる病院にあるまじき虐待や人権侵害に対して当会も精神障害当事者をもつ家族の立場として、怒りをもって滝山病院事件の徹底究明と厳正な処分を求めるとともに、早急に現在入院している患者の救済（退院支援や適切な対応）を求める。

【滝山病院事件は精神科医療のもつ構造的な問題にほかならない】

滝山病院の問題は患者への許しがたい虐待や人権侵害にとどまらず、精神科の身体合併症（特にここは透析を必要とする精神障がい者の受け皿となっている）体制の不備、種々の理由で受け入れ先がない患者の最終的な受け皿を「必要悪」と認めてきた医療行政の問題や社会的関心度の低さ、それにより生じる地域行政との癒着、精神科医療機関の閉鎖性の高さ、身体拘束の問題、精神科特例の問題など精神医療の複合的な問題を露呈している。

【精神科医療の抜本の見直しを求める】

宇都宮病院事件、大和川病院事件、神出病院事件など精神科病院による虐待人権侵害問題は後を絶たない。今回の滝山病院事件はその問題を徹底的に追求し厳正な処分を行う必要があるが、これを滝山病院だけの問題にとどめず、繰り返される精神科病院の虐待人権侵害に終止符をうつべく精神科医療がもつ構造的な問題を見直さない限り精神科病院の不祥事は収まらない。そして国や都のこのような不祥事を許してきた指導・監督行政の責任も問われるべきである。この問題を我がこととして精神科病院、医療従事者、行政、支援者、家族、利用者など関係者は重く受け止め、本当に患者の人権が守られる精神科医療の具体的な改革に踏み出すことを強く求める。

東京都精神保健福祉家族会連合会
(通称：東京つくし会)
会長 眞壁 博美